

注記



- ① 1ª Travessia Aerea Do Atlantica Sul 第1回南大西洋横断
- ② Cinquentenario 50周年
- ③ Gago Coutinho-Sacadura Cabral
ガーゴ・コーチニョ、サカドゥラ・カブラル
- ④ Mozanbique 1972 モザンビーク 1972
- ⑤ DES. F. A. MOREIRA DE SÁ — ESC. JOSÉ ALVES 人名
- ⑥ Mais Depressa, Mais Alto, Mais Longe!.,, より速く、より高く、より遠く
- ⑦ Navegação Astroñomica 天文ナビゲーション
- ⑧ m.GREENWICH グリニッチ子午線
- ⑨ Rosboa Rio de Janeiro 30・III・1922 — 17・IV・1922
リスボン、リオデジャネイロ 30/03/1922 — 17/04/1922
- ⑩ Viagens Aereas Dos Portugueses 二人のポルトガル人の空の旅
- ⑪ CAP. FERBER 動力飛行機の開発に功績があったファーバー大佐で、⑥の標語の作者と思われる。

注1) 太い湾曲した矢印の中の文字または記号は以下の通り。

ahg ★ はリスボンで観測する星の時角、AHS ★ は星の赤経、★ はリスボンの恒星時、LONG W は西経、一番下の弧の t はグリニジで観測する星の時角、赤道上の記号 γ のようなものは春分点
天文航法 (ナビゲーション) を使ったことに敬意を表して経度に関する図を描き込んだと思われる。

注2) カーゴ・コーチニョとサカドゥラ・カブラルの二人は、1922年に南大西洋横断飛行を行った。これは、1919年のアメリカ海軍による大西洋横断飛行の成功を受け、ポルトガル海軍が企画したものである。カーゴ・コーチニョは、ポルトガルの軍人で、植民地サントメプリンシペ近辺の測地測量を実施し、赤道との位置関係を測定した。この飛行では航法士（ナビゲータ）を務め、1926年に海軍大学の校長になった。

注3) この飛行については、

https://en.wikipedia.org/wiki/First_aerial_crossing_of_the_South_Atlantic

に詳細がある。その中に、They had reached that point by relying solely on the Coutinho's sextant with its artificial horizon.と飛行横断に際し、六分儀が役にたったという記載がある。この記載はメダルの図柄に関連するように思われる。

注4) この二人の功績をたたえ、リスボンには記念碑がある。

<https://www.guiadacidade.pt/pt/poi-monumento-1a-travessia-aerea-23816>